JAPRS

JAN .2010 No.1
新春号

社団法人　日本音楽スタジオ協会

目　次

会長年頭挨拶 1

平成21年度通常総会＆懇親会レポート 2

第10回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート 4

第8回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告 6

2009年JAPRS企業説明会レポート 7

第6回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告 9

音楽DVD制作ガイド技術セミナーレポート 10

K2技術勉強会レポート 11

第16回日本プロ音楽録音賞授賞式レポート 12

第16回日本プロ音楽録音賞 審査委員講評 21

「音の日のつどいパーティ」レポート 29

会員動向 31

会長年頭挨拶

(社) 日本音楽スタジオ協会
会 長　内 沼　映 二

新年明けましておめでとうございます。
日本音楽スタジオ協会を代表し、謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は、米国の金融破綻の影響が国内に波及し、後半には円高・ドル安に拍車がかかり、新卒者も含めた就業率の悪化傾向も含め、様々な業界にとって負の連鎖が続く年となってしまいました。
政権を得た民主党には、明確な方針と優先順位に基づいた強いリーダー・シップを発揮して欲しいものです。

さて、本年12月17日、JAPRSは社団法人として満20周年という記念の年を迎えることとなります。
この20年間の音楽業界を取り囲む様々な制作環境への対応を含め、JAPRSを支え続けていただいている正会員・賛助会員の皆様に対し、心より感謝申し上げます。

また、JAPRSといたしましては、平成25年11月末を期限とする公益法人制度改革に関し、本年度より本格的な対応を図る時期となっております。
JAPRSの今後にとって重要なテーマであることを認識し、努力する所存です。

会員の皆様をはじめ、関係各位のご支援・ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

平成21年度通常総会＆懇親会レポート

＜通常総会＞

５月28日（木）、JAPRSは港区白金台の「ザ・ハウス白金」2Ｆにおいて、平成21年度通常総会を開催し、平成20年度の事業報告書（案）決算報告書（案）、平成21年度事業計画書（案）及び収支予算書（案）について正会員に諮り、全ての議案が異議なく全員一致で承認された。

はじめに、佐藤 事務局長が定足数の確認を行い、委任状を含む46名の出席数を確認（定足数28）、総会の開会を宣言した。

続いて内沼 会長が議長に当たり、議事録署名人として常任理事の広岡 淳利 氏、村山 淳一 氏の両名が選出された。

総会

次に清水専務理事より第１号議案「平成20年度事業報告書（案）」及び佐藤事務局長より「収支決算報告書（案）」について説明が行われ、審議の結果、異議なく全員一致で承認された。

続いて清水専務理事より第２号議案「平成21年度事業計画書（案）」及び佐藤事務局長より「収支予算書（案）」について説明が行われ、審議の結果、第１号議案と同様に全員一致で承認された後、議長である内沼 会長が閉会を宣し解散した。

＜懇親会＞

通常総会終了後、18：30より「ザ・ハウス白金」1Ｆにおいて、正会員、賛助会員及び招待者を含む102名が集い、懇親会が開催された。

内沼 映二 会長

司会進行は総務委員会の佐々木 委員長（アザブ・オー・スタジオ）と町田 副委員長（ゼネラル通商）の２名が担当し、内沼会長の開会の挨拶に続き懇親会が始まる。

続いて乾杯となり、恒例により平成20年10月から正会員として新たに入会された株式会社エスアイプロジェクト代表取締役社長 髙城 賢 氏により乾杯の発声が行われ、歓談タイムとなる。

乾杯の発声・髙城 賢 氏

ご来賓代表・木本 直美 氏

会場内は自然に何組かの歓談の輪が出来上がり、和やかな雰囲気になったところで、当協会の所管官庁である経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課（メディアコンテンツ課）課長補佐 木本 直美 氏が到着。来賓代表として挨拶が述べられた。

2009懇親会全体

石野 和男 副会長

更に歓談が続くうちに中締めの時間となり、石野 和男・副会長による挨拶が行われ、本年の懇親会も無事に終了となりました。

スタッフとして開宴前より準備にご協力いただいた会員の皆様、有難うございました。

第10回JAPRS新プロ・エンジニア養成セミナーレポート

平成12年第１回目を開催して以来、今回で10年目を迎えたのが、この新プロ・エンジニア養成セミナーです。

専門学校委員会の主催により実施されているこのセミナーは、JAPRS賛助会員加盟専門学校18校の２年生以上を対象として、東京地区、大阪地区正会員スタジオの協力により継続されているもので、プロのレコーディングスタジオにおけるセッション開始前のスタジオセットアップを体験させることを主目的としています。今回は、６月13日（土）～６月20日（土）の期間で東京地区２日間計４回、大阪地区１日１回開催。

＜実施内容＞

①アシスタントエンジニアによるスタジオブースの説明
②アシスタントエンジニアからのアドバイス
③ミックスダウンのセットアップ
④ミックスダウン・デモ
　2chバランス・2chメーターの確認　EQの使用方法　DYN・INS系の使用方法
　クロス・パッチ等　AUX系のエフェクタ・バランス トータル処理の方法

東京地区会場（６月１３日（土）～14日（日）於：タワーサイドスタジオ Cst&Ast）
　参加者：９校　61名
　エンジニア　吉田　保氏
　アシスタントエンジニア：見元　李衣氏
大阪地区会場（６月21日（土）於：スタジオグルーヴAst）
　参加者：３校　16名
　エンジニア：吉田　保 氏
　アシスタントエンジニア：松嶋　毅之氏

東京会場：サンライズスタジオ タワーサイド Cst

＜タイムスケジュール＞
東京会場：タワーサイドスタジオ Cst
　6 月13日（土）
　　1 回目　10：00～12：15
　　2 回目　13：00～15：15
　　3 回目　15：30～17：45
　6 月14日（日）　Ast
　　4 回目　13：00～15：15

大阪会場：スタジオグルーヴ Ast
　6 月20日（土）
　　1 回目　13：00～15：15

大阪会場：スタジオグルーヴ Ast

第８回JAPRS認定「サウンドレコーディング技術認定試験」実施報告

７月５日（日）、札幌×２、仙台×２、新潟、東京×７、名古屋×３、大阪×２、広島、博多の８地区19ヶ所の団体受験会場に分散して実施された「第８回サウンドレコーディング技術認定試験」については、当初の受験申請者数604名に対し、欠席者を除く当日の受験者数540名の参加により実施されました。

試験内容は例年通り四者択一マークシート方式で、音響の理論／電気音響とスタジオシステム／レコーディング技術と先進技術／音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史などの４ジャンルから各25問（計100問、1000点満点）が出題されましたが、平均点は708.94点という結果になりました。

キャットミュージックカレッジ専門学校

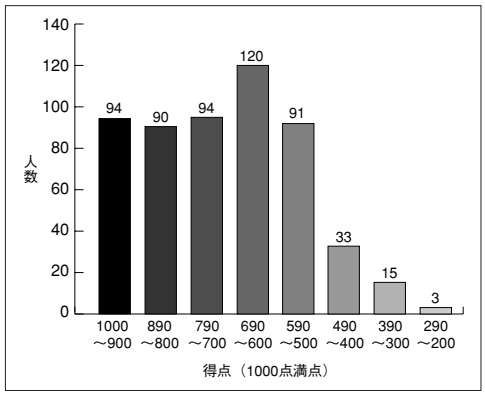
また、昨年度の受験者数570名に対して、本年度は30名が減少いたしました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

（１）受験申請者604名　欠席64名　受験者540名（男性349、女性191名）
　　最低点240点　最高点1000点（８名）　平均点708.94点

（２）平均点詳細（各ブロック250点満点）
　　Ⅰ.音響の理論　正答率　73.52%　平均点　183.8点
　　Ⅱ.電気音響とスタジオシステム　正答率　67.64%　平均点　169.1点
　　Ⅲ.レコーディング技術と先進技術　正答率　70.14%　平均点　175.4点
　　Ⅳ.音楽・音楽著作権・音楽録音の流れ・録音の歴史など　正答率　72.28%　平均点　180.7点

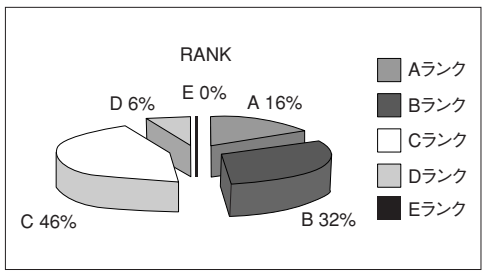
（３）得点別人数

1000～900	94名
890～800	90名
790～700	94名
690～600	120名
590～500	91名
490～400	33名
390～300	15名
290～200	3名
計	540名



（４）ランク別人数

Ａランク	1000～901点	88名
Ｂ　〃	900～701点	174名
Ｃ　〃	700～451点	243名
Ｄ　〃	450～201点	35名
Ｅ　〃	200点以下	0名
計		540名



2009年JAPRS企業説明会レポート

専門学校ESPミュージカルアカデミー　井良沢　元治

受付風景

平成21年６月28日（日）、専門学校生を対象としたJAPRS企業説明会が高田馬場の専門学校ESPミュージカルアカデミーで開催されました。企業説明会も９回目を迎え、JAPRSの恒例行事のひとつになっています。

開催当日はあいにく雨でしたが、仙台、新潟、大阪地区も含めた熱心な学生たち114名が参集いたしました。

一方出展側からは正会員スタジオ７社、賛助会員社１社より15名が参加しました。

今回の説明会は専門学校ESPミュージカルアカデミーB2「club 1ne 2wo」を会場として行われました。

まずJAPRS・内沼 映二会長から開催の挨拶をいただき、脇田専門学校副委員長より概要の説明、続いて吉田 保 専門学校委員会委員長より激励のお言葉を頂戴いたしました。引き続き出展企業様より自社の紹介をしていただきました。

その後、説明会場をclub 1ne 2wo内に８箇所のブースをつくり、Ⅱ部の前半がスタートしました。今回は１回あたりの説明時間を20分とし、１回目から３回目までは訪問する出展ブースを各学生たちに指定し、後半の４回目から５回目を自由訪問としました。

内沼 映二 会長

吉田 保 委員長

しかし４回目以降もほとんどの学生が帰ることなく参加し、最後まで熱心に質問をしておりました。今回の実施に際し、ご出展いただいた企業の皆様に心より御礼申し上げます

また、監督指導していただいた先生方、お疲れ様でした。

(株)エムアイティギャザリング

(株)音響ハウス

(株)サウンド イン スタジオ

(株)サウンド・シティ

(株)サンライズミュージック

(株)バーディハウス

(株)ミキサーズラボ

(株)サンフォニックス

出展企業

(株)エムアイティギャザリング	取締役	横山　武
	レコーディングエンジニア	原　敬輔
(株)音響ハウス	経理総務部 執行役員	頼富　清一
	経理総務部 総務課長	豊田　重成
(株)サウンドインスタジオ	主事	河野　洋一
(株)サウンド・シティ	総務部総務課課長	船津　広隆
	営業部 課長	明地　権
	技術部 チーフエンジニア	安木謙一郎
(株)サンライズミュージック	代表取締役	佐々木高志
(株)バーディハウス	常務取締役	蜂屋　量夫
	取締役	横井　俊一
	ブッキングマネージャー	小寺　幸子
(株)ミキサーズラボ	採用担当	上野　健也
(株)サンフォニックス	管理部総務課課長	西尾　靖彦
	管理部総務課主任	柳下　朋子

(以上敬称略)

第６回JAPRS認定「Pro Tools技術認定試験」実施報告

PT試験　東放学園音響専門学校

9月13日(日)、札幌×2、仙台×2、福島、新潟、東京×7、横浜、名古屋、大阪×2、神戸×2、広島、博多の11地区21ヶ所の団体受験会場に分散して、「第６回JAPRS認定Pro Tools技術認定試験」が実施されました。本年度の受験者数は、昨年度の433名に対して478名になり、45名の増加という結果となりました。

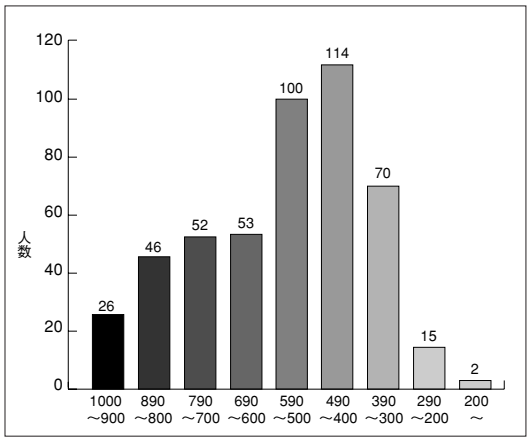
また、今回の試験については、昨年と同様に受験者個々のPro Toolsに関する知識をより明確に把握するために、初級50問（500点）、中級50問（500点）の出題構成とし、それぞれ「Pro Tools概要」「録音・編集」「ミキシング」「シンク・MIDI・ファイル管理など」に区分された出題としたが、初級問題の正答率は64.9%、中級問題については48.3%、全体的な正答率は56.6%という結果になりました。以下の通り実施結果の詳細を報告致します。

（１）受験申請者562名　欠席84名　受験者478名（男性280名、女性198名）
最低点170点　最高点990点　総合平均点562.9点

（２）平均点詳細
初級1（Pro Tools概要／100点）：70.7点
初級2（録音・編集／120点）：79.9点
初級3（ミキシング／120点）：69.4点
初級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／160点）：98.9点
◆初級計 319点
中級1（Pro Tools概要／120点）：61.7点
中級2（録音・編集／150点）：79.5点
中級3（ミキシング／130点）：57.6点
中級4（シンク・MIDI・ファイル管理など／100点）：43.9点
◆中級計 242.8点

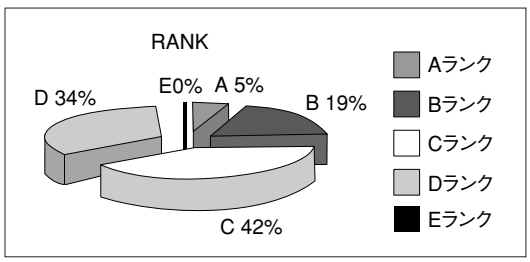
（３）得点別人数

1000～900	26名
890～800	46名
790～700	52名
690～600	53名
590～500	100名
490～400	114名
390～300	70名
290～200	15名
200～	2名
計	478名



（４）ランク別人数

Aランク	1000～901点	24名
B　〃	900～701点	91名
C　〃	700～451点	198名
D　〃	450～201点	163名
E　〃	200点以下	2名
計		計 478名



音楽DVD制作ガイド技術セミナーレポート

株式会社ミキサーズラボ　マスタリング部　菊地　　功

田中 龍一 氏（(株)ミキサーズラボ／ワーナーミュージック・マスタリング）
藤田 厚生 氏（(有)エフ）

去る11月13日（金）に東放学園音響専門学校・渋谷校舎に於いて、DVD-Video制作に関するセミナーが行われた。

これは、過日JAPRSより発刊された『サウンドエンジニアのためのDVD-Video 音声基礎講座』を受けたもので、幅広くサウンドクリエーターにもその制作過程、知っていそうで知らないこと等々を、わかりやすく解説をし、理解を深めてもらおうと企画したものである。

解説者は、音声基礎講座の執筆者でもあり自身でもワーナーミュージック・マスタリングでDVD制作に携わっているミキサーズラボの田中龍一氏を迎えた。

参加者は、レコードメーカーの制作や、営業宣伝等の方々をはじめ多くのスタジオ関係者が小雨にもかかわらずご出席され、50名を超える盛況ぶりであった。内容がとても充実していて、途中休憩を入れて終了時間を一時間近くオーバーするほどだった。

盛り沢山のセミナー内容（下記に紹介）は、「オーサリングの流れ」から始まり、各用語を説明しながら、工場に納品するマスターまで細部に亘り解説された。

中でも個人的に興味のあったアスペクト比についての説明は、誤解されやすい部分をわかりやすく説明されていたのが印象的であった。

映像に関することなので、我々エンジニアとして知らなくても分野が違うからといって避けていたことや見過ごしていたこと等、細かに説明されると知っていた方がプラスになる所が多く非常に有意義なセミナーであった。

セミナー内容は

- オーサリングの流れ
- マルチ音声、マルチアングル、字幕
- ビデオ収録時間
- ２層を選択した時の注意
- 最良のビットレートを得るためのブレークポイント
- チャプターポイントおよびポイント決定の注意点
- エンコード用ビデオの種類
- 音声の仕様
- マスタリング
- 音声レベル
- アスペクト比（4：3又は16：9）
- エンコード後の画像チェック
- メニュー画像の支給
- メニュー画面の構成
- メニュー画面上の動作指示
- コピーガード
- オーサリングの作業時間
- プレマスターの種類

以上のような内容でDVD-Video制作に関わることの導入編としては参考になったと思う。

尚、JAPRS発行の『サウンドエンジニアのためのDVD-Video 音声基礎講座』により、音に関する事項は詳しく説明されているので参考になると思う。

K2技術勉強会レポート

株式会社サウンドインスタジオ　河野　洋一

11月24日、東放学園音響専門学校にてK2技術勉強会が開催されました。
参加者は総勢19名で、２班に分かれ座学と比較試聴を行いました。

桑岡 俊治 氏（JVC・ケンウッド・ホールディングス(株) 統合技術戦略推進部 コア技術開発センター第一部）

K2テクノロジー開発は、1987年K2インターフェースの開発に始まり、現在はK2 HD CodingとnetK2を開発し運用しています。

そもそもK2の考え方は、より良い音質を提供するために開発されたものであり、K2インターフェースは伝送におけるジッターなどの影響を理論上受けない画期的な方式で、今回のK2 HD CodingとnetK2もその流れを汲むものです。

○K2 HD Coding

オリジナルマスターが持つ、最大100kHzに及ぶ広帯域と24bitの分解能を、現在のCDフォーマットに収める手法です。CDフォーマットは御存知の通り44.1kHz・16bitで、理論上半分のfs以上の周波数は収録できませんが、K2 HD Coding技術は、オリジナルマスターに入っている20kHz以上、また24bitの高分解能な情報を既存のフォーマットに織り込む技術との事です。

具体的なことは開示できない部分もあるようですが、故意に「色付け」するのではなく、元々の音楽信号を分析・演算処理を行い、上記のような信号を生成しているそうです。

今回のセミナーでは、アナログハーフインチの音源を用い、マスター直の音・通常のADCで作成したCDの音・K2 HD Codingされた音を実際に聴き比べました。

各人印象はさまざまあると思いますが、通常のADCで作成したCDの音はいつもよく聴く印象の音で、K2 HD Codingされた音はより「アナログ」的なニュアンスでマスターに近い印象を受けました。

高田 英男 氏（ビクターエンタテインメント(株) コンテンツ技術部長・ビクタースタジオ長）

このK2 HD Coding技術を使いFLAIR Masteringにて行っているマスタリングを「K2 HD マスタリング」といい、ビクターエンタテインメント(株) から既に数百タイトル発売されており、海外からのオーダーにも対応しているそうです。

今回のセミナーとは直接関係ありませんが、参考資料ということでガラスCDの音源も比較試聴を行いましたが、こちらはまた違った意味で今までのCDとは次元の違う音が収録されている印象を受けました。

○netK2

主に配信楽曲など圧縮音源の高音質化を図る技術で、マスター音源を圧縮する前に処理を行う「K2 Pre Engine」、エンコードされた音源をサーバに送るシステムの高品位化「通信伝送K2」、再生するハードウェア機器の高音質化を図る「K2 Post Engine」からなります。

具体的なことはK2 HD Coding同様開示できない部分があるようですが、実際の音を聴くと、圧縮による音質の劣化は皆無にはなりませんが、netK2の処理をした物の方が圧縮による音質劣化が少なく、よりレンジが広く感じられました。

KDDIがサービスを提供している「着うたフル」にもこの技術が使われており、さらなる高音質化を目指した新バージョンを先日開発し、近々提供される予定になっているとのことです。

○まとめ

今回K2技術の開発過程・実際の音に触れ、改めてデジタルデータの取扱い方・音に対する意識の持ち方を考えさせられました。たかがデジタル、されどデジタルという言葉がありますが、そのことを体感できる非常に貴重な勉強会でした。講師を務めていただきましたビクタースタジオ高田様、開発者の桑岡様に心より感謝を申し上げます。

第16回日本プロ音楽録音賞授賞式レポート

内沼 運営委員長

「日本プロ音楽録音賞」は、平成５年に当協会が制定した「JAPRS録音賞」を出発点とし、音楽制作、録音に対する認識を高め、音楽産業の更なる質の向上、録音技術者の地位の確立などを目的として、平成６年より実施されているものです。

今回第16回目の実施にあたり、（社）日本音楽スタジオ協会および（社）日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、（社）日本レコード協会、演奏家権利処理合同機構Music People's Nestの５団体が主催し、経済産業省の後援および日本放送協会、（社）日本民間放送連盟の協賛、サウンド＆レコーディング・マガジン、CDジャーナル、スイングジャーナル、ステレオサウンド、レコード芸術の賛助、並びにビクターエンタテインメント（株）、オタリテック（株）、（株）ソナ、アビッドテクノロジー（株）、東放学園音響専門学校の協力により「第16回日本プロ音楽録音賞」を実施し、平成21年12月３日（木）、富士ソフト 秋葉原ビル2Ｆ「アキバシアター」に於いて授賞式、５Ｆ「レセプションホール」に於いてパーティが開催され、受賞作品および受賞者の発表が行われました。

今回の授賞式も「音の日」のイベントとして開催され、はじめに内沼会長が運営委員長として開会の辞を述べられ、続いてプロ音楽録音賞に対し後援を得ている経済産業省 商務情報政策局 文化情報関連産業課 課長補佐 木本直美氏が来賓代表として挨拶された後、４部門計10作品およびベストパフォーマー賞、アビッド賞について表彰が行われました。

木本 直美 氏

応募作品の分類については以下の通りとし、審査は以下の４部門およびベストパフォーマー賞、アビッド賞を対象に行われ、全75作品の応募から部門Ａ：3作品、部門Ｂ：３作品、部門Ｃ：１作品、部門Ｄ：３作品がそれぞれ優秀作品としてノミネートされ、その中から各部門１作品が最優秀作品として選定され、更にベストパフォーマー賞１作品、アビッド賞１作品が選ばれました。

部門Ａ：2chパッケージメディア／応募作品28点
クラッシック、ジャズ等
部門Ｂ：2chパッケージメディア／応募作品24点
ポップス、歌謡曲等
部門Ｃ：サラウンドパッケージメディア／応募作品6点
SACD 、DVD-Audio、DVD-Video、
Blu-ray Discのマルチchサラウンド
部門Ｄ：放送メディア／応募作品17点
放送作品部門（ラジオ番組：AM、FM、
衛星放送、テレビ番組：地上波、衛星放送）
ベストパフォーマー賞
アビッド賞

今回は、各部門の最優秀作品、優秀作品およびベストパフォーマー賞、アビッド賞を紹介するとともに、最優秀作品として表彰された代表エンジニアの方々およびベストパフォーマー賞のアーティスト、アビッド賞の代表エンジニアにアンケートを依頼し、受賞の感想、作品のコンセプトについてコメントをいただきましたので、14頁以降に掲載させていただきます。

第16回日本プロ音楽録音賞
授賞式次第

1、主催者代表挨拶

第16回日本プロ音楽録音賞　運営委員長
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二

2、ご来賓ご挨拶

経済産業省　商務情報政策局
文化情報関連産業課 課長補佐　木本　直美 様

3、最優秀作品・優秀作品の発表及び表彰並びに審査員講評

部門A
社団法人日本オーディオ協会　会長　校條　亮治
社団法人日本音楽スタジオ協会　相談役　大野　進

部門B
社団法人日本レコード協会　常務理事　水村　雅博
日本ミキサー協会　理事長　梅津　達男

部門C
社団法人日本音楽スタジオ協会　会長　内沼　映二
ビクターエンタテインメント株式会社　ビクタースタジオ長　高田　英男

部門D
日本放送協会放送技術局制作技術センター　センター長　熊田　典明
社団法人日本音楽スタジオ協会　顧問　淺見　啓明

4、ベストパフォーマー賞の発表及び表彰並びに審査員講評

演奏家権利処理合同機構
ミュージック ピープルズ ネスト　副代表幹事　松武　秀樹
代表幹事　椎名　和夫

5、アビッド賞の発表及び表彰並びに審査員講評

アビッドテクノロジー株式会社
アビッド･アジア･パシフィック･フィールドマーケティング･マネージャー
松中　康夫
ビクターエンタテインメント株式会社　ビクタースタジオ長　高田　英男

6、受賞者代表挨拶

部門B　最優秀賞　マスタリング・エンジニア　渡辺　昭人

以上

部門A　「2ch パッケージメディア」クラシック、ジャズ等
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「Jazz Impression」（EWSA0163）より「Meteor」
渡辺　香津美

発売元：株式会社イーストワークスエンタテインメント

☆メイン・エンジニア：鈴木　浩二（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

＜受賞のことば＞

このたびは第16回日本プロ録音賞において「最優秀録音賞」をいただき、誠にありがとうございました。大変うれしく光栄に思います。

このアルバム「Jazz Impression」は渡辺香津美、待望のジャズアルバムです。そしてこの曲「Meteor」は、渡辺香津美（g）、則竹裕之（ds）、井上陽介（b）、本田雅人（ss）というシンプルで豪華メンバーによる、ドンカマを使用しない、同時録音で録音された曲です。

全ての楽器をマイクを使っての録音で、立体感や奥行き感を表現するために、マイクの種類、楽器との距離に神経を注ぎ、頭の中でシュミレーションをして臨みました。

今回の音作りに対する私のテーマは、このすばらしいミュージシャンのエネルギーをストレートにスピーカーから表現するということでした。当たり前ですが、最初のテイクから録り逃しのないように緊張感を持って、また、JAZZMUSICなので何が起こるかわからない、不安と楽しみの中、録音しました。

SACDハイブリッドでの発売でしたので、SONOMA（DSDマルチ）に録音、そしてDSDにミックスし、「迫力のあるリアルなサウンド」を作りました。

今回特に実感しましたのは、「よい演奏」がない限り「よい録音」は成り立たないということです。今回、この賞を頂けたのは、素晴らしいミュージシャンの方々のお蔭だとつくづく思いました。

この作品に関わられた皆様に感謝申し上げます。これを励みに今後とも、よい音楽よい録音の作品に携われるよう、努力して行きたいと思います。

○マスタリング・エンジニア：鈴木　浩二
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

○アシスタント・エンジニア：波多腰　英靖
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

【優秀賞】

●作品「AMBITIOUS」（VICL-63167）より「Red Sprite」森

発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆メイン・エンジニア：秋元　秀之（ビクターエンタテインメント株式会社）
○マスタリング・エンジニア：川﨑　洋（FLAIR MASTERING WORKS）
○アシスタント・エンジニア：八反田　亮太（ビクターエンタテインメント株式会社）

●作品「うたをうたうとき」（TRBR-0013）より「Face to Face」DiVa

発売元：troubadourcafé/地底レコード

☆メイン・エンジニア＆マスタリング・エンジニア：佐藤　洋
（コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社）
○レコーディング・エンジニア：塩澤　利安
（コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社）

部門B「2ch パッケージメディア」：ポップス、歌謡曲等
（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「MOON ISLAND」（TOCP-70756）より「AFTER THE LOVE IS GONE」
THE BOSSA NOVA HOTEL

発売元：株式会社EMIミュージック・ジャパン

☆メイン・エンジニア：
THE BOSSA NOVA HOTEL

＜受賞のことば＞

"Thank you for this award. We are thrilled that our work of heart,"Moon Island",is so appreciated by such an honorable society. Striving for quality and being awarded for it is a rarity nowadays and we accept this award with thanks, humility and gratitude.
Janey, Michael and Bruce aka.. "The Bossa Nova Hotel"

心を込めて制作したアルバム「ムーン・アイランド」が名誉ある評価をいただき、興奮しています。質を高める努力によって表彰されることは、なかなか無い事です。
感謝と謙虚さを持って受け取らせていただきます。
ジェイニー、マイケル、ブルース（ザ・ボサノヴァ・ホテル）

○マスタリング・エンジニア：渡辺　昭人
（株式会社EMIミュージック・ジャパン・スタジオ）

【優秀賞】

●作品「SKOOP ON SOMEBODY」（SECL717）より「I Want You」
Skoop On Somebody

発売元：SME Records Inc.

☆メイン・エンジニア：宮坂　保彦（株式会社一口坂スタジオ）
○マスタリング・エンジニア：酒井　秀和
（株式会社ソニー・ミュージックコミュニケーションズ）

●作品「No Reason～オトコゴコロ～」（VICL-63338）より
「Everlasting Love」髙橋　真梨子

発売元：ビクターエンタテインメント株式会社

☆メイン・エンジニア：梅津　達男（株式会社ミキサーズラボ）
○マスタリング・エンジニア：川﨑　洋（FLAIR MASTERING WORKS）
○アシスタント・エンジニア：桑野　貴充（ビクターエンタテインメント株式会社）
○アシスタント・エンジニア：石　光孝（株式会社ミキサーズラボ）

部門C「サラウンドパッケージメディア」SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】

■作品「グレート・エンカウンター林英哲withオーケストラ（「空叩光初白。」ライブ）」（KIGS2）より「石井眞木「モノプリズム」日本太鼓群とオーケストラのための」林　英哲　SACD

発売元：キングレコード株式会社

☆メイン・エンジニア：小貝　俊一
（株式会社フロレスタン）

＜受賞のことば＞

今回部門Ｃの最優秀賞をいただき誠に有難うございました。この曲のリハーサルを聴いた時に、オーケストラの前に並んだ締太鼓のpppからfffクレッシェンドが、あたかも音のカーテンが立ち上がり、その奥のオーケストラが見えなくなるような錯覚を覚え鳥肌が立ちましたが、録音でその様子を追体験出来るか否かが一つの課題でした。この録音を聴いて頂いた方々が、少しでも同様な印象を持って頂けましたらエンジニア冥利に尽きます。ちなみに、締太鼓のすぐ近くにいたヴァイオリン奏者の皆さんは、片耳に耳栓をしていました！無理もありません。

この録音はホールでのマルチマイク収録でしたので、メインマイクとニアーマイクの距離による時間差を補正するため、各ニアーマイクにディレイを入れています。録音機にテープを使っていた時代は、ディレイをインサートするだけで音質が悪くなってしまい使えなかった手法ですが、ツールス時代になって、簡単に音質劣化が無く使えるようになりました。遅延時間は距離から割り出したり、波形を合わせたりして決

めますが、数ミリセカンドで音の表情、演奏の感じまで変わってしまうので、最終的には聴感で決定しています。

最後になりましたが、素晴らしい演奏をして頂いた林 英鉄さん、岩村 力さん、オーケストラ、太鼓奏者の皆さんはじめ、このライブ録音に携わって下さった多くの方々に心より感謝いたします。

○マスタリング・エンジニア：安藤　明（株式会社キング関口台スタジオ）
○テクニカルエンジニア：高橋　邦明（株式会社キング関口台スタジオ）
○アシスタント・エンジニア：吉越　晋治（株式会社キング関口台スタジオ）

部門D「放送メディア」放送作品部門（写真は☆印の代表エンジニア）

【最優秀賞】
■作品「オーケストラ･アンサンブル金沢の調べ」
「「熱狂の日」音楽祭2009～モーツァルトがいっぱい～」より
モーツァルト クラリネット協奏曲イ長調 K.622 第2楽章 Adagio
指揮：井上 道義、オーケストラ・アンサンブル金沢、ポール・メイエ

北陸朝日放送（株）HDTV　5.1ch　2009年６月20日放送

☆メイン・エンジニア：秋田　裕介
（株式会社放送技術社）

＜受賞のことば＞
この度は、第16回日本プロ音楽録音賞　部門D「最優秀賞」をいただき、誠にありがとうございます。最高の栄誉に喜びも一入で、今後のサラウンド制作に大きな励みとなると実感しています。
応募した楽曲はソロ演奏がメインとなっていますが、5.1サラウンドにおける利点を活かし、オーケストラの配置関係を壊さないマイクポジションとミキシングに気を使いました。
また、strやwoodなど、配置の関係からクラリネットより前に出ないよう、ミキシングバランスをとり、観客席で聞いた感じに近づけました。
収録スタイルについてですが、基本は吊りマイクがメインになっています。
置きマイクにして本数を増やしてしまうと、どうしても音の回り込みが増えてしまい、シンプルな収録ができなくなってしまいます。置きマイクは、各楽器の定位を出すために加えているため、マイクは必要本数にとどめ、ナチュラル感を大切にしています。
収録時にMTRを使用し、各マイクの音源収録をしていますが、基本は後処理をしないよう、一発録りをメインにしています。
ラ･フォル・ジュルネ金沢でのタイトなスケジュールの中での収録となりましたが、演奏者の音色がすばらしく、バランスの良い音源収録となりました。

○セカンド・エンジニア：北川　嘉市郎（北陸朝日放送株式会社）
○セカンド・エンジニア：山中　康男（朝日放送株式会社）

【優秀賞】

■作品「第41回思い出のメロディー」より「ロマンス」岩崎　宏美

NHK　HDTV　5.1ch　2009年８月22日放送

☆メイン・エンジニア：福島　芳樹（日本放送協会）
○セカンド・エンジニア：中鉢　由希（日本放送協会）
○セカンド・エンジニア：永田　隆信（日本放送協会）
○オーディエンスミックス：鈴木　勇一（日本放送協会）

【優秀賞】

■作品「平等院音舞台」より「ブエノスアイレスの秋」
ジョシュア・ローマン

（株）毎日放送　HDTV　5.1ch　2008年10月５日放送

☆メイン・エンジニア：田中　聖二（株式会社毎日放送）
○セカンド・エンジニア：杉本　誠（株式会社毎日放送）
○アシスタント・エンジニア：金谷　宣宏（株式会社毎日放送）
○アシスタント・エンジニア：北川　浩康（株式会社サウンドエースプロダクション）

ベストパフォーマー賞

■作品「2nd ALBUM」（IOCA-20284）より
「From Into The Grey Sky」
今　剛

発売元：エイベックス・マーケティング株式会社

アーティスト：今　剛

＜受賞のことば＞

この度は本当にありがとうございます。もう嬉しい！の一言に尽きます。足掛け10年に渡るスタジオ作業が報われた思いです。

自身の２枚目となるソロ･アルバムを作ってみよう、と始めたのは良いのですが仕事の合間に、尚且つスタジオが空いている時の作業で、その上殆どの作業を独りで行っていて、コントロール・ルーム側で全部ボリューム落として、ヘッドフォンして、マイク立てて生ギター弾いて、コンソールいじって、テレコ回して、という風でしたから随分時間が掛かってしまいました。更に制作途中で、その頃出回り始めた初期のPro Toolsに落とし込んでみたらその音が気に入らなくて、そこで数年ストップしたりもしていました。

ミックスも全部自分で手がけました。バランスを取ったり音色を調整したりとその時はプレイヤーでなくエンジニアに徹していましたね。マスタリングはFLAIRの川﨑洋さんにお願いしたのですが、失礼ながら３回ほど再調整をお願いして、遂に完成したマスターを工場に入れて更にプレス機を３種類試して、一番気に入ったマシンでずっとプレスして貰えるようにしました。ここはリリース元のavexが理解してくれて、本当に感謝しています。

このように音質的にこだわった所も多かったのですが、今回は「ベストパフォーマ

ー賞」ということで「音質」と「楽曲」を褒めて頂けたのかな、と一層嬉しく思っています。ありがとうございました！（談）

アビッド賞

■作品「宵祭り」（CHCB-10087）より
「宵祭り」里　アンナ

発売元：株式会社チャプター・ワン

☆メイン・エンジニア：瀧田　二朗
（フリーランス）

＜受賞のことば＞
　音楽にたずさわり初めて賞と言う物をいただきました。大変光栄に思います。今後も自分の音を求めて日々努力して行きたいと思います。今回はありがとうございました。

○マスタリング・エンジニア：川﨑　洋（FLAIR MASTERING WORKS）
○レコーディング・エンジニア：田中　武（フリーランス）

審査委員会

総合審査委員長	内沼　映二
副審査委員長	高田　英男
部門A･B･C審査委員	内沼　映二、梅津　達男、大野　　進、椎名　和夫、 塩澤　利安、下川　晴彦、高田　英男、高橋　邦明、 永井　秀文、浜田　純伸、藤田　厚生、松尾　順二、 松武　秀樹、吉田　　保、脇田　貞二、渡辺　昭人
部門D審査委員	淺見　啓明、石野　和男、加藤　茂樹、亀川　　徹、 清水　幸男、浜田　暁弘

（以上50音順）

今回の顕彰内容については、各部門の最優秀作品と優秀作品の制作に携わったメイン・エンジニア、マスタリング・エンジニア及びベストパフォーマー賞のアーティストに表彰状とクリスタル製の表彰楯を贈呈し、セカンド・エンジニア、アシスタントエンジニアには表彰状を贈呈。また、アビッド賞についてはメイン・エンジニアに表彰状とクリスタル製の表彰楯および副賞を贈呈し、マスタリング・エンジニアおよびレコーディング・エンジニアには表彰状と副賞を贈呈。

なお、部門Ａ、Ｂ、Ｃの最優秀賞については、優秀なスタッフと良好な環境を提供されたメインのスタジオについても表彰状とクリスタル製の表彰楯が授与された。

クリスタル製の表彰楯を手にした受賞者の皆さん

第16回日本プロ音楽録音賞　審査委員講評

＜部門A　2chパッケージメディア（クラシック、ジャズ等）＞

（社）日本音楽スタジオ協会
相談役 大野 進

それでは部門Aの講評をさせていただきます。
お手元のパンフレットにもございましたが、今年のA部門への応募総数は計28作品で、去年より１作品増えましたが、作品が増えるということは、非常に嬉しいことでございまして、また17回、18回と続くわけですけれども、どんどん応募作品が増えることを期待しております。

また、審査する方は１曲ずつ真剣に聴きますので、非常に疲れるんですが、何せ皆さんのすばらしい作品をどう評価していくかということで一生懸命、審査員一同聴いておりますので、取りあえずその辺をご報告申し上げます。

昨年のこの講評の時にも申し上げたんですけれども、DAWがかなりレコーダー等で主体になっていると思うんですが、昨年に比較して非常に皆さんすばらしい使い方をされていて、顕著にその良さが表れている作品が多かったように聴かせていただきました。

特に本年の作品は、ホール・スタジオを問わず、演奏そのものをいかに忠実に表現するかという考察が顕著に表れた作品が多かったと思っています。

例えば、マイクの選定や、演奏する人達に対するマイクの位置取りが、非常に皆さんご工夫なさっているのではないかと思います。

また、DAWとアナログコンソールの併用が、現状は主流になっているようですが、非常にすばらしい使い分けをされているように感じられ、エンジニアの前向きな姿勢を高く評価したいと思います。

それでは、審査の講評として、優秀賞の方から感想を述べさせていただきますけれども、ビクター・秋元さんの「Red Sprite」という作品ですが、ベーシックとなるベース、ドラムス、リズムギター、ピアノ、パーカッションのリズム全体の音場構成が非常に良く表れておりました。それに対してリードギターが非常にしっかりした粒立ちで、良い感じに響いています。それに加え、チェロのバランスが非常に見事だったと思います。生音の良さが充分に発揮された作品と、高く評価したいと思います。

続きまして、コロムビア・佐藤さんの「Face to Face」という作品なんですが、これもベースの非常に重い感じの良い響きからはじまり、ピアノ、ドラムスとどんどんリズム体が加わって、そのリズム体の個々の音色が非常に良く、リードボーカルも非常にナチュラルな響きで聴きやすかったですね。曲そのものも非常に強弱というか、ダイナミックレンジの広い音場となっていて、その変化を音色を損なうことなく、良く表現されていると感じました。特に私が気に入ったのは、ピアノの音が非常にクリアーで、心地良く聴かせていただきました。

最後に、最優秀賞を受賞されました、ソニー・鈴木さんの「Meteor」ですが、やっぱりベースやドラムのしっかりとしたリアリティー感と、秀逸なグルーヴ感です。思わず、聴き入っている人間が前へ、音楽の中へ入り込むような仕上がりだったと思い

ます。
　エンジニアの皆さんは経験があると思いますが、特にドラムの収録時には多数のマイクを使用することから、ハットやシンバリングのカブリによって定位感が不鮮明になることが多々生じると思います。鈴木さんの作品は、しっかり定位感がポイントポイントで収まっていて、なかなか上手いこと録音したなという風に思います。
　香津美さんのギターは、リードの部分とリズムに変わる部分というのが、非常に滑らかにスムーズに展開され、尚かつそれにサックスが絡んでくる、この絡み方が非常に絶妙であったという風に評価します。エキサイティングな非常に良い演奏を、思う存分忠実に表現しているこの作品に対しては、本当に敬意をもって賞賛を贈りたいと思います。

　受賞されました皆様、本当におめでとうございます。また一生懸命良い作品を作っていただきまして、応募していただくことを期待しております。

＜部門B　2chパッケージメディア（ポップス、歌謡曲等）＞

日本ミキサー協会
理事長 梅津 達男

　部門Bの講評をいたします。
　まず応募作品数は24作品、昨年の27作品に続きまして、多数の応募をいただきました。今回の作品はいわゆるJ-POPそれからROCK、JAZZ、R&Bあり、そして演歌もございました。日本ならではのプロ録になったと思います。
　全体に感じましたのは、どの作品も大変丁寧に作られている事と、それと音楽をよく理解し、曲にあった音作りがなされていたと思います。ここ数年の傾向といたしまして、たくさんのリバーブを使うということが少なくなったように思います。その代わりに、アンビエントとしてオフマイクを足したり、それからコンプを利用して小さい音を持ち上げたりと工夫しております。これにはいろんな考え方があると思いますが、今の音、それからポップな音を考えながらの自然な空間作りをされていると思いました。
　また、DAWのミックス、またマスタリングでもデジタル処理により、かなり音量レベルのアップが可能になりました。とにかく大きくなったと思います。ただその大きい中で音の輪郭や立体感が、どれだけ表現できるかというのがポイントのように思いました。

　そんな中で今回の優秀賞、宮坂保彦さん録音の、Skoop On Somebodyの「I Want You」。
　リズム＆ブルースのキックとベースを中心とした音作りで、しっかりした低音が常に流れ、その上にボーカルとコーラスが心地よく録音されていました。そしてアクセントになっているウインドチャイムとハープの陰に、長めのノイズのヒットがあって、細かい所にも工夫されていました。
　いつもミックスをする時に、ポップスの原点としてカッコ良いこととか、心地良いとか、そういったことを作っていこうと思っているのですが、この作品は、その両方を表現できた作品だと思っております。

そして最優秀賞のTHE BOSSA NOVA HOTELの「AFTER THE LOVE IS GONE」。ネットでTHE BOSSA NOVA HOTELを検索いたしまして、いろいろ調べたんですが、まず３人組であること、それから皆さんかなりのキャリアを持っている方でした。それからミックスはメンバーの女性ボーカリストであり、キーボードも担当のジェイニー・クルーワーさんであることを知りました。ジャズの香りのする音で、リフの心地良いバランス、何よりも粒立ちの良い音が印象的でした。

渡辺昭人さんのマスタリングで、最後に全体の音を整えられたと思いますが、本当に大きな音の中でも、音の輪郭がしっかり出ていて、潰されていない音の良さが最優秀賞と評価されたと思います。

もうひとつの優秀賞、すいません、私の録音の高橋真梨子の「Everlasting Love」ですが、録音こぼれ話をひとつ紹介しますと、アレンジの小林信吾さんのたってのお願いで、ドラムを山木さんにお願いしていたんですが、当日ライブのリハがあるということで、録音すべてを５時からにしようということになっていました。２時半ぐらいに山木さんがもう現れ、「リハ終わっちゃった。」みたいなことで入って来まして、もうスタッフは大慌てしていて、それから「どんな曲？」みたいなことを話して、「ブラシでちょっと軽めのジャズっぽいものみたいだよ」、というような会話をしていたら、２種類のブラシを選んだりした後、それでもちょっと時間が余っていて、セットした４つのタムをピアノブースに持っていき、１つ１つ音程を合わせていっているんですね。ベテランでもこういった、１つ１つの音作りの丁寧さ、これが作品作りに繋がったと思います。マスタリングはプロ録皆勤賞の川﨑さんが実力を発揮ということで、ありがとうございます。

本当に、１曲を作るまでにいろんな物語があると思います。それは今回ノミネートされた曲すべてに、それぞれ良いこと、悪いことも含めた物語が繰り広げられております。そこにどれだけの差があるのかというのはちょっと考えさせられました。とにかくエンジニアはアーティストにより良い録音環境、そして良い音楽を作るように、力を注いでおります。来年もそんな作品が聴けることを期待いたしまして、講評とさせていただきます。本日は受賞者の皆様、おめでとうございました。

＜部門C　サラウンドパッケージメディア＞
SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド

C部門講評をさせて頂きます。

サラウンドによる音楽制作そのものはDVD映像作品、アニメ音楽などで増えている感じはしているのですが、今年度応募作品は６作品と少ない状況でした。

ビクターエンタテインメント株式会社
コンテンツ技術部長
ビクタースタジオ長 高田 英男

DVD作品が２作品
SACD作品が４作品

今回応募頂きましたサラウンド作品における音創りの拘り

をご紹介致しますと
①音場表現が無理なく豊かに表現出来る。
・メインサウンド（直接音）の質感を大きく変えないで、アンビエント（音場表現）が可能。
②積極的なサラウンドサウンドへのチャレンジ
・指揮者の位置をイメージしたサラウンド創り
・録音スタジオが持つ音響空間を生かしたサラウンド創り
・楽器別に音響空間を変えて録音（倉庫・ホール・スタジオ）し、それぞれ定位させる事により大きな空間を表現
・映像とリンクしたサラウンド表現
積極的にサラウンドにチャレンジしている事が伝わってきます。

今年度サラウンド部門　最優秀賞は「グレート・エンカウンター　林 英哲withオーケストラ」の“モノプリズム”に決定致しました。

メイン・エンジニア	（株）フロレスタン	小貝さん
マスタリング・エンジニア	（株）キング関口台スタジオ	安藤さん
テクニカル・エンジニア	（株）キング関口台スタジオ	高橋さん
アシスタント・エンジニア	（株）キング関口台スタジオ	吉越さん

サラウンド部門の最優秀賞受賞本当におめでとう御座います！

作品内容
楽器音量そのものが極端に違う和太鼓とオーケストラであり、録音する側としては大変難しい編成です。
音創りポイント
①ピアニシモから感じられる緊張感（演奏者の気迫）の表現
②ホール録音＆サラウンドならではの和太鼓（大太鼓）のスケール感
③オーケストラと和太鼓のコラボレーション
④ピアニシモから感じられる緊張感の表現
・私自身も鬼太郎座の録音にてモノクロームと言う曲を録音したのですが、音として感じられる極限の空気振動のニュアンスを音で伝える難しさ、ピアニシモから表現される緊張感、締太鼓独特のデジタルピーク対策など、録音としては大変難しい録音です。

②ホール録音＆サラウンドならではの和太鼓（大太鼓）のスケール感
・サントリー大ホールでの大太鼓の音はサラウンドサウンドの特徴を生かし、素直でクリアーなサウンドの中にホール独特のスケール感が表現されている。オーディエンスをリアにする事により、クリアーな中に雄大な和太鼓が表現されている。

③オーケストラと和太鼓のコラボレーション
・音のフォーカスを基本的に和太鼓に合わせ、オーケストラはホール響きによる雄大なスケール感とし、エンディングに向けて融合して行く録音技術は究極のアコースティック録音と感じました。

まとめ
　音楽サラウンドソフトは、現状ビジネス的にも応募数も厳しい現状ですが、サラウンド制作をアーティスト・プロデューサーなどと一緒に創作して行く状況を創りお客様へ音楽感動が届けられれば、音楽業界への活性化にも繋がると思っております。サラウンド作品を審査し感じる事は、録音技術の力（工夫）が、音楽そのものの芸術性を高めていく力になっている事を体感し、録音技術の向上が音楽感動を伝える力となる事を改めて感じた次第です。

　受賞された皆様、本当におめでとう御座いました!!!!!

＜部門D　放送メディア＞

（社）日本音楽スタジオ協会
顧問 淺見 啓明

　今回部門Dに応募された作品は、17作品で、その内11作品がサラウンドの作品でした。特に、地方局で、2011年の地上波デジタル本放送開始を前にして、積極的にサラウンド作品にトライされていることを、大変力強く感じました。

　今回、最優秀賞を受賞されたのは北陸朝日放送の作品「オーケストラ・アンサンブル金沢の調べ」「「熱狂の日」音楽祭2009～モーツァルトがいっぱい～」より、「モーツァルト クラリネット協奏曲イ長調」で、クラリネットソロはフランスのポール・メイエです。
　まず第２楽章の冒頭、クラリネットのナチュラルな音色と木管本来の響きをともなった臨場感の素晴らしさは、圧巻でした。また、オーケストラ全体の音色もナチュラルで、各パートのバランスも良く、クラリネットとの過不足のないバランス感が、空間の連続性の中に表現されておりました。また、ピアニシモにおけるディテールとフォルティシモにおける音場の整然さは、大変見事に処理されておりました。更に5.1サラウンドをさりげなく活かした点も更なる可能性を感じる作品でした。

　続いて、優秀賞を受賞された毎日放送の「平等院音舞台」より「ブエノスアイレスの秋」です。この「音舞台」とは、京都や奈良の歴史的な寺院を舞台として、音楽やパフォーマンスを奉納するイベントで、1989年に金閣寺で始まり、今年で21回目になります。今回の舞台は、世界遺産に登録された宇治平等院の鳳凰堂をバックに、池を挟んでの演奏会です。
　ジャズやロックなど異色なジャンルとのコンテンポラリーなチェロ演奏を目指しているジョシュア・ローマンと、ギター、ピアノ、コントラバスによるモダン・タンゴ（タンゴモデルノ）のカルテットです。香りも豊かで尖鋭で色彩的、そしてスリリングなサウンドが再現されていました。チェロをフィーチャーしたトータルバランスは、メロディーラインを際立たせて心地よいものでした。オープンな場所で、かつ池の水から伝わる音楽という条件は、ホールでの演奏とは異なった心地よいサウンドでした。

　続いて、同じく優秀賞を受賞されたNHKの「第41回思い出のメロディー」より、岩崎宏美の「ロマンス」です。ポップボーカルは歌詞の明瞭度が先ず優先されますが、

この点については、ライブ収録であるにも拘わらず大変すばらしく、プレゼンス効果も抜群で、それに対応するオーケストラの鋭さとライブネス感が大変優れた作品でした。

ともすればソフトな方向に流れがちになるオケ全体のアンサンブルの明瞭度も良く、弱音のストリングス用のマイクの被りの処理が旨く、キックドラム、ベースの引き締まった低域がアクセントを与えていました。また、5.1サラウンドは、臨場感とサウンドのスケール感を作り出す効果が充分発揮されておりました。

これで、私の講評を終わります。受賞された皆さん、お目出度うございました。また、来年も素晴らしい作品を聴かせてください。

＜ベストパフォーマー賞＞

演奏家権利処理合同機構
ミュージックピープルズネスト
代表幹事 椎名 和夫

今さんおめでとうございます。今さん今日は、井上陽水さんのリハーサルが入っているということで欠席となってしまい非常に残念なんですが、とにかくおめでとうございます。今さんは最近陽水さんとテレビによく出演されていて、陽水さんの後ろで大きなお腹でギターを弾いているのが今さんでございます。

山・大・今（やまだいこん）という言葉がありまして、スタジオシーンに君臨する最高のリズムセクションということで、ドラムの山木秀夫さん、それからベースの大仏さんと、ギターが今さんということで、山・大・今なんていう言われ方をしていたりもします。千歳烏山に、僕もよく遊びに行くBSTというスタジオがありまして、今日のパンフレットにも書いてあります通り、そこで彼が夜な夜なレコーディングをしていたことをよく覚えています。今回受賞された楽曲はエレクトリックな感じですが、他にアコースティックな曲などもありまして、とても多彩ですばらしいアルバムですので、皆さんも是非聴いていただけたらと思います。

少し古い話になってしまうんですが、1970年代後半から80年代ぐらいに、ようやくスタジオミュージシャンという名前も世間に知れ渡るようになりまして、海外で言いますとリー・リトナーとか、部門Ｂで受賞したTHE BOSSA NOVA HOTELのマイケル・センベロとか、ジェイ・グレイドンとか、そういう方達が出てきまして、日本でもぼちぼちそういうミュージシャンが出始めて、まあ僕らもその端くれだったわけですが、1978年ぐらいだったですかね、伊豆のキティのスタジオで井上陽水さんの「WHITE」というアルバムのレコーディングがありました。そのときはたしかスタジオ協会の大野さんがエンジニアだったと思うんですけど、当時の陽水さんのレコーディングはたいていエレキが２人呼ばれることが多くて、それまでは高中正義さんや松原正樹君と一緒にやることが多かったんですが、今回はアメリカ帰りの今君という人が来るそうだっていうことで、いったいどんな人が来るのかなあと思って楽しみにしていましたら、こーんなに髪の長い結構無愛想な人で、“どうも初めまして”って挨拶したら“おっ、ども”みたいな、そんな感じの出会いでした。以後ずっとスタジオの

ギタリスト１本で活動されていて、本当にミュージシャンらしいミュージシャンではないかと思います。
　日本の音楽業界は今なかなか苦しい所にあると思います。経産省の方々にもがんばっていただきたいと思うんですが、そういう業界を底上げして支えているような所に、エンジニアもあり、またスタジオミュージシャンもあるというふうに思います。そういう意味で今さんには、これからも末永くがんばっていただきたいという気持ちもこめて、この賞を贈りたいと思います。本日はおめでとうございました。

＜アビッド賞＞

ビクターエンタテインメント株式会社
コンテンツ技術部長
ビクタースタジオ長 高田 英男

　今年度から新たに顕彰されました「アビッド賞」につきまして講評させて頂きます。

　アビッド賞についてはエンジニアの技術力・クリエート力をポイントに審査する事ですが、実際に審査に参加し、いざ点数を付けるとなると大変難しいな～と感じました。
　技術力はあくまでも音楽制作における手段でありまして、手段を想像し審査する事は本当に難しかったです。

　基本的には音楽性と音創りが合致し、気持ちの良い作品が結果として高い評価に繋がったと感じた次第です。

受賞作品
（株）チャプター・ワン発売

「宵祭り」	里　アンナさん
メイン・エンジニア	フリーランス　瀧田さん
マスタリング・エンジニア	FLAIR　川﨑さん
レコーディング・エンジニア	フリーランス　田中さん

　アビッド賞受賞本当におめでとう御座います！

　作品「宵祭り」のサウンド感ですが、素直な音色の中に透明感があり、DVD映像作品も併せて見させて頂きましたが、アーティスト・里　アンナさんの唄のイメージがとても良く表現されたサウンドに仕上がっていると感じました。
　テクノロジー的要素が全面的に感じるのではなく、自然な素直さ・透明感を表現する為にテクノロジーが活躍している・・・そんな印象を持ちました。

　ではミックスダウンにおける具体的テクニカルアプローチについてお伝え致します。

①ミックスは全てPro Tools内にて行っています。
　拘りとしてはアナログコンソールを使ってミックスしている感覚で対応し、プラグインについては一つのトラックに複数使用しない様に心がけたとの事です。

②AD/DAは通常の192 I/Oを使用し、クロックについても通常通りです。
③DigiLinkケーブルに拘り、高音質化を図る。
　192 I/O～PC接続ケーブルによって音質変化があり、拘っている。

④マスタリング持込みへの拘り
・ファイナルミックスをマスターメディアに落とす事による音質変化を避ける為に、Pro Toolsも持込み（オリジナルハードディスク使用）、マスター2MIXの音質変化が出来るだけ少ない方法にて対応する。
・マルチセッションでの持込み
＊マスタリング時にある楽器の帯域上下を補正した時に、変化を付けたくない楽器（トラック）まで影響する為に、マルチセッションで補正対応する。
＊マスタリング・エンジニアとの連携がポイントになります。

　エンジニア瀧田さんにテクニカル的な事をお伺いして感じる事は、デジタル技術と併せて、アナログ技術・音質など大変熟知され、その判断基準がデジタル環境での音質判断に繋がっていると感じました。
　又、今回ご紹介した以外にも音創り（音楽制作）に拘りを持って対応されていて一つ一つの積み重ねが結果として素晴らしいサウンド創りになっていると、音楽制作における拘りの重要性を改めて認識した次第です。

まとめ
　今後も音楽制作における録音技術（アナログ・デジタル）は進化し、音楽制作への大きな力になります。
　録音技術の基本となるアナログ技術を理解し、デジタル技術を活用出来る更なる対応力がエンジニアにとって大変重要である事を痛感致しました。

「音の日のつどいパーティ」レポート

平成21年12月3日（木）「音の日」記念イベントとして、18：15より富士ソフト 秋葉原ビル5F「レセプションホール」に於いて、当協会および（社）日本オーディオ協会、日本ミキサー協会、（社）日本レコード協会、演奏家権利処理合同機構Music People's Nestの共催により、第16回日本プロ音楽録音賞授賞式関係者と当日併行して開催された（社）日本オーディオ協会主催の「音の匠顕彰式」関係者が参加した「音の日のつどいパーティ」が開催された。

当日の模様を以下にレポートさせていただきます。

校條 亮治 会長

内沼 映二 会長

最初に（社）日本オーディオ協会の校條亮治会長より来場者に対して開会の辞が述べられ、続いて（社）日本音楽スタジオ協会・内沼会長により乾杯の発声が行われた。

「音の匠」受賞の皆様

30分程経過したところで、本年度の「音の匠」として顕彰された内容が以下の通り紹介された。

第14回にあたる本年度は最古の再生音楽機器として現代においても根強い人気で人々を癒し続けているアンティークオルゴールの世界で、とりわけ伝統あるアンティークオルゴールの技術と音を現代に継承する修理技術で永らく活躍されている個人の方として「オルゴールの小さな博物館」の井上正二郎さん、「おでんせ」の大谷勲さん、「ハイランドアンティーク」の大森裕武さんの三人を「音の匠」として顕彰しました。さらにアンティークオルゴールの技術と音を現代に継承するための「オルゴールの小さな博物館」運営とメカニックの育成によりアンティークの完全な形での再現を行い、感動を提案し続ける活動、および各種アンティークオルゴールに関する著作、CD製作を通じた普及活動に対し「オルゴールの小さな博物館」館長の名付義人さんが「音の匠特別功労賞」として顕彰されました。

「音の匠」の紹介に続き、プロ音楽録音賞授賞式の司会者「石川 みゆき」さんの進行により、第16回日本プロ音楽録音賞に於いて表彰された各部門34名の受賞者を代表して、最優秀賞に選ばれた代表エンジニア４名とベストパフォーマー賞が紹介され、インタビューが行われた。

部門Ａ「2ch パッケージメディア
（クラシック・ジャズ等）」
鈴木　浩二 氏
（株）ソニー・ミュージックコミュニケーションズ

部門Ｂ「2ch パッケージメディア
（ポップス・歌謡曲等）」
THE BOSSA NOVA HOTEL（欠席）
渡辺　昭人 氏（代理）
（株）EMIミュージック・ジャパン・スタジオ

部門Ｃ「サラウンドパッケージメディア」(SACD、DVD-Audio、DVD-Video、Blu-ray Discのマルチchサラウンド)
小貝　俊一 氏
（株）フロレスタン

部門Ｄ「放送メディア」
秋田　裕介 氏
（株）放送技術社

ベストパフォーマー賞
今　剛 氏（欠席）
津森　修二 氏（代理）
エイベックス・エンタテインメント（株）

代表者４名とベストパフォーマー賞のインタビューが終了した後は再び歓談タイムとなり、会場内では受賞者を取り囲んで談笑する場面が見受けられ、今年も様々な音のプロフェッショナルな方々が一同に会する場となりました。

最後に中締めの時間となり、社団法人日本レコード協会 情報・技術部部長 畑　陽一郎 氏の挨拶により、無事に終了となりました。

今回もプロ音楽録音賞の運営委員会および審査委員の皆様をはじめ、多くの関係者のご協力により、第16回目を無事に終了することが出来ました。有難うございました。

（社）日本レコード協会
畑　陽一郎 氏

会　員　動　向

1．会員数（平成21年12月１日現在）

正会員（法人）	36法人	正会員（個人）	17人
賛助会員Ⅰ	42法人	賛助会員Ⅱ	３法人

2．退会

①正会員

○財団法人 ヤマハ音楽振興会 エピキュラススタジオ　　平成21年９月30日付

②賛助会員Ⅱ

○株式会社 アドレンズ　　平成21年９月30日付

3．法人・会員代表者および住所変更、その他

①法人正会員

○株式会社 一口坂スタジオ

［法人代表者変更］

（旧）村山　淳一（代表取締役社長）

（新）福江　元久（代表取締役社長）

村山　淳一（顧問）、黒田　勝也（顧問）

○株式会社ジィード　　平成21年５月１日付

［法人代表者変更］

（旧）石塚　良一（取締役）

（新）陣山　直子（代表取締役）

②賛助会員

○株式会社 トライテック　　平成21年11月30日付

〒142-0061 東京都品川区小山台1丁目8－5

TEL：03-3793-8411（代）　FAX：03-3793-8413

4．その他

○経済産業省　異動　　平成21年６月15日付

経済産業省 商務情報政策局文化情報関連産業課

（旧）係長　青田　優子→通商政策局経済連携課関税企画室

（新）係長　新井　絢子（アライ ジュンコ）

平成21年７月14日付

（旧）課長　村上　敬亮

（新）課長　信谷　和重（ノブタニ カズシゲ）

○会長変更

社団法人 音楽電子事業協会

（旧）加藤　博万

（新）岡部　比呂男（ヤマハ株式会社取締役常務執行役員）

○役員変更

株式会社 エス・シー・アライアンス

（代表取締役会長）鈴木　輝一

（代表取締役社長）松木　哲志

○理事変更

社団法人 音楽出版社協会　　平成21年７月１日付

（旧）専務理事　駒井　　勝

（新）専務理事　後藤　順一

○住所変更・役員変更
株式会社EMIエンタテインメント・ジャパン　平成21年６月８日より
〒160-0006　東京都新宿区舟町6－5　1484ビル5F
TEL：03-5367-8460（代表）　FAX：03-5367-2481
（旧）代表取締役　中曾根　純也
（新）代表取締役　佐々木　公成
○役員変更
株式会社EMIミュージック・ジャパン
（旧）専務取締役　中曾根　純也
（新）監査役　中曾根　純也
○本社住所変更
コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社　平成21年８月24日付
〒105-0001　東京都港区虎ノ門4丁目1番40号 江戸見坂森ビル
TEL：03-6895-9001（大代表）
コロンビアソングス株式会社
〒106-0047　東京都港区南麻布4丁目11番21号 ラウンドクロス南麻布ビル
○住所変更
ロックドア株式会社　平成21年７月21日付
〒160-0008　東京都新宿区三栄町24番地　黒田ビル1F
TEL：03-5312-6939　FAX：03-5312-6988
○住所変更
社団法人音楽出版社協会　平成21年８月31日付
〒107-0062　東京都港区南青山2-31-8-3F
TEL：03-3403-9141　FAX：03-3403-9140（TEL、FAX番号は変更なし）
○住所変更
株式会社イーブイアイオーディオジャパン　平成21年８月31日付
〒150-0002　東京都渋谷区渋谷3-6-7 ボッシュ渋谷ビル4F
TEL：03-5485-4427　FAX：03-5485-4428
○FAX番号変更
トップ・ビジネスサポート株式会社　平成21年10月１日付
（旧）03-3253-0890
（新）03-3252-0283
○住所変更
ジェネオン・ユニバーサル・エンターテインメントジャパン合同会社
平成21年10月13日付
〒107-6110　東京都港区赤坂5-2-20　赤坂パークビル
TEL：03-5544-3400（代表）　FAX：03-5544-3455（代表）
○住所変更
株式会社ウェブクウ　平成21年10月５日付
〒107-0062　東京都港区南青山5-10-5 青山ハイツ504
TEL：03-5766-1595　FAX：03-5766-1695
○事務局長変更
社団法人 音楽制作者連盟　平成21年12月１日付
（旧）濱野　啓介　参与
（新）緒方　庶史　常務理事兼事務局長

♪　編　集　後　記　♪

2009年は政権交代が成されたり、事業仕分けがTVで公開され、蓮舫さんのバッサバッサと切り込む話し方に見とれ驚いたり、目が離せなかった後半でした。
レコーディングスタジオは相変わらず、ボチボチしかお客様が入ってませんよネ!?　何とか又レコーディングに皆様がいそしまれる様願って止みません。

Y.S

明けましておめでとうございます。事務局は、昨年後半に石川正通君が退職し、伊東真奈美さんが新たに加わりました。皆様よろしく御願い申し上げます。昨年の日本、政権が交代した割には、相変わらず沖縄問題に始まり、誰が何を決定するのやら・・・。唯一、明るい話題は石川遼と池田勇太の若い力が台頭したプロゴルフの業界ぐらいですね。

hair ken short

2010年明けましておめでとうございます。昨年もアットいう間に終わった１年でした。事務局近くにおいでの際は是非食べていただきたいラーメン屋があるので、声をかけて下さい。

yakiton

11月よりお世話になっております、伊東と申します。皆様にはご迷惑をお掛けしておりますが、少しずつ業務にも慣れてきました。本年も宜しくお願い申し上げます。

mm

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊ 総　務　委　員　会 ＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

委 員 長　梶原　裕子（Azabu O Studio）　　委　員　佐藤　賢一（事務局）
副委員長　町田　幸紀（ゼネラル通商）　　〃　　山本　　薫（　〃　）
〃　　茂木　泰佑（個人会員）　　〃　　伊東　真奈美（　〃　）

＊＊＊

【発行人】 会　長　内　沼　　映　二　　【発　行】 2010年（平成22年）１月
【発行所】 社団法人 日本音楽スタジオ協会
〒169-0072 東京都新宿区大久保2丁目1番11号　モナーク大久保３Ｆ
TEL. 03－3200－3650　　FAX. 03－3200－3660
http://www.japrs.or.jp　　E-mail:japrs@japrs.or.jp
【編　集】 総　務　委　員　会　　【印刷所】 株式会社研恒社

JAPRS

Japan Association of Professional Recording Studios
http://www.japrs.or.jp E-mail:japrs@japrs.or.jp